

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 2月 12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503940		
法人名	医療法人 永和会		
事業所名	グループホームわらえ		
所在地	広島県 福山市 金江町 藁江553 (電話) 084-930-1462		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成27年11月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>御入居者様の日々の生活を大事にし、出掛ける楽しみや他の方の為に自分のできる事をし、また、してもらうことで、ご入居者様個々を認め合っていただけよう努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームわらえ（以下、ホーム）は、福山市西部の高台に位置し、病院や老人保健施設が併設されています。地域資源の活用や法人と連携し施設機能の還元など、地域に溶け込み、お互いが支え合う関係づくりに努力されています。</p> <p>法人が運営する保育所の子どもやデイサービス利用者との交流があり、入居者の楽しみの一つにもなっています。また、外出支援を臨機応変に対応し、気分転換を図りながら落ち着いた日常生活が送られるよう支援されています。</p> <p>さらに、職員の育成指導に力を入れ、研修を通して職員の質の向上を図りながら、提供するサービスの質の向上に繋げておられます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念とともに自分たちで考えた理念を掲げ、職員間で理解を深めるよう話し合っている。 又、年2回管理者と職員の面談を行い、理念の確認を行っている。	法人理念を基本に、職員全員で考えたホーム独自の理念を掲げておられます。理念を玄関に掲示し、ホームに出入りする人たちが目にふれやすいように工夫されています。職員面談や行事計画説明時には、理念を組み込みながら話しをするなど共有の徹底が図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	文化祭や祭り、草刈など地域行事に参加し、交流に努めてたり、運営推進会議に参加していただき事業所の取り組みをお伝えしている。	文化祭に入居者の作品を出品するなど、地域の一員として行事に参加されています。運営推進会議に参加する地域住民をパイプ役に、ホームの理解と協力関係の呼びかけを行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎日のゴミ捨てや買い物など、屋外での活動を行うことで地域住民への理解を求めよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度を目標に会議を開催し、ご家族や地域へグループホームでの取り組みをお話し理解を求めると共に、その時々に応じた話しを参加者にしていただき広く高齢者についての理解を求めている。	会議には、家族、公民館館長、自治会会長、地域包括支援センター職員、市担当者の参加があります。会議では、入居者の状況報告や行事計画・報告を行い、会議終了後に入居者と一緒と同じメニューの食事をしたりテーマを決めて講和するなど、会議内容や開催方法に工夫されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者の運営推進会議への出席を含め、必要に応じ適宜連絡を取り支援、指導を受けている。	市の介護保険課、生活福祉課、保健福祉課等と連携し、いつでも相談できる関係が築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修計画に応じ、職員の研修参加及び伝達講習を行っている。ケア方法の疑問を職員間で話し合い、解決できない場合はコンプライアンス会議に回り、具体的に指導を受ける取り組みをしている。</p>	<p>年1回の法人研修を通して、身体拘束の考え方について理解を深めておられます。また、ホームで伝達講習も行い、欠席した職員にも周知できるよう取り組まれています。職員は、「指示をしない」「思い込みで支援をしない」の共通認識を持ち、入居者の生活が抑制されないという姿勢を徹底されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員への虐待についての勉強会参加が義務付けられており、職員間でコミュニケーションを取り易い関係を作ることで防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>タウンソーシャルワーク、社協等の成年後見人についての研修、包括支援センターの職員と話し合うことで、活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、重要事項説明書にて説明し、理解を得たうえで署名して頂き、その後の疑問についてはその都度説明させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、苦情や意見を言い易い場を作り、職員と利用者・ご家族とのより良い関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居者の日常の様子や医療情報、行事報告、わらえ新聞を毎月家族に手紙を添えて送られています。家族が訪問した際には意見や要望を聞かれています。出された意見や要望は、職員間で話し合い、運営に反映できるよう取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、全体会議と各階ユニット会議を開催し、職員の意見を求め、会議録にて回覧している。 又、管理者は法人全体の会議に出席、要望があれば提案できる場が設けられている。	年2回、管理者が職員と面談を行い、個別で意見や提案が出しやすい環境をつくられています。また、毎月の職員会議で意見交換の時間を設け、全員の意見を聞きながら運営に反映させる仕組みを整えておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの概要、給与査定の開示、研修案内を掲示し、目標とやりがいをもち働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々に年度研修目標が定めてあり、達成の為に研修案内が示される。また、初任者にはOJTを受けられるよう定められている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域研修会への参加・交流を持ち、情報の共有や意見交換に努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、御本人・ご家族よりの意見を求め、入居決定後に昼食に招待するなど来居の機会を作り、不安が少なく入居して頂けるよう努めている。		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定前の見学・相談を受け付け、グループホーム内の生活を見て頂き、現在の理念・取り組みを説明、御本人、ご家族の要望をお聞きし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報から、他サービス利用で在宅可能かを含め提案したあと、入居前の情報を職員全体が共有し、入居に向けての対応を話し合い、必要であれば医療機関やデイケアの利用などといった対応が取られている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除や食事作りなど、個々にできる事を一緒に行うことで、グループホーム内での一員であり、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	グループホーム新聞の毎月発行、一人ひとりの一ヶ月の様子を担当者が手紙に記入し、日々の暮らしを感じて頂いたり、来居時にも日々の様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に通っておられた歯科受診やご近所さんの面会時にも一緒にお話しさせて頂くなど、今までの生活を取り入れて生活して頂いています。	知人や友人の訪問があります。家族の協力を得て、墓参りや生まれ育った場所へ出かける入居者もおられます。これまでの人間関係や習慣を大切にしながら、一人ひとりに応じた支援が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様一人ひとりの状態に応じ、食事の席や職員の対応を理解して頂き、他者に関心を持っていただけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時にも今後、何かありましたらご相談下さい、の一言を添えると共に退居後も情報を得よう心掛けている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人日誌を活用し、職員個々が共通の情報を基に対応し、より良い方法を各自実践し共有している。	入居者ごとに主担当、サブ担当の職員を決めておられます。また、全職員が入居者の情報を共有できるよう、2～3か月ごとに担当職員を交代されています。センター方式のわたしの姿と気持ちシートを用いて、思いや意向の把握に努めておられます。意思表示が難しい入居者は、選択肢の提示や、家族から聞き取りをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者個々のカルテ内に情報記入がされており、各職員がいつでも見ることが出来る為、各自情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの個人日誌を活かし、一日を通しての様子を職員全体で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>個人日誌やセンター方式アセスメントの利用、来居時にご家族の要望を伺い、モニタリング会議内で話し合っている。</p>	<p>主担当とサブ担当を中心に、3か月ごとにモニタリングを実施されています。結果をもとに、全職員で支援内容を検討されています。介護計画は、その結果を踏まえて見直しされています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人日誌に各職員の声掛け方や反省、思い等や、利用者様の反応などの記入欄があり、情報を共有し話し合い計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>体調の変化や入居前の情報により、他事業所PTへの相談やデイケア利用など行われている。また、他事業所で行われている行事等に参加し、広い地域の関わりを持つようになっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事に参加し地域資源の活用に努めている。地域出身の方々もおられるため、その方を中心に、地域への関わりを持って行けるようになっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>グループホームかかりつけ医と連携し、家族の希望を伺いながら病状によっては各専門病院を受診している。</p>	<p>これまでのかかりつけ医を継続して受診する入居者がおられます。また、週1回、協力医療機関の往診があり、受診が難しい入居者でも安心して適切な医療が受けられるよう支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>週に一度の往診時に病院よりグループホーム担当の看護師が同席し、細かな診療治療を受ける事が出来る。また、在籍看護師への連絡・相談も密に行えるよう、日誌への記入欄を設けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力病院が多数あり、情報交換が行われている。入院された際には、出来る限り面会に行き様子を把握し、退院時にはカンファレンスに同席し、帰居後へ繋ぐ対応をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>看取り等の希望は伺っているが、現状、医療機関との連携の中でははっきりした結論が出ていない。</p>	<p>ホーム内での看取りは行われていませんが、ホームで過ごせる時点までを支援されています。母体の病院と連携し、医師の判断によって転院されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>入居者一人ひとりを知ることで、今後起こり得る事態に対応できるよう職員間で話し合いが持たれている。 事故発生時のマニュアル制作や勉強会も行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署員立会いの下、年一回の避難訓練を実施し、連携施設との共同消火活動も行っている。又、外部の防災研修、消防競技会にも参加している。</p>	<p>想定される災害は火災と地震です。年2回の訓練のうち1回は、夜間を想定して実施されています。自治会回覧で地域住民に訓練参加の呼びかけを行い、参加協力を得ておられます。管理者は、防災士や防火管理者の講習会の参加を予定し、いざという場合に適切な対応ができるよう取り組まれています。</p>	<p>災害時には、併設の施設職員が応援に来ることが可能ですが、いざという緊急時には地域の協力も必要となります。そのためには、協力内容を明確にする必要もあります。引き続き、地域住民の参加の呼びかけを行い、地域と一緒に避難方法・対策について検討されることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する礼を失わない声掛けや対応に努め、職員間でも話し合っている。。	入居者への言葉がけについて、職員会議の議題にあげられています。名前の呼び方、誘導時の声かけ、トイレや入浴介助時の配慮など、職員間で気づきを出し合い、良い対応方法や改善すべき点を全員で共有されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入所者とのコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いを引き出し、職員、入居者が共有し、分かってもらえる、満足感を持てるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活の中で、無理強いすることなく、利用者の思いに沿った外出や散歩・家事などの声掛けを行い、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類や雑貨などの買い物の必要があれば、利用者と一緒に掛けて購入している。 その日に着る衣類も、利用者と一緒に選び、着て頂くようにしている。 美容室等も希望に応じ、外部を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の買い出しには、利用者と一緒に掛付け、食べたいもの、季節を感じる物など食材を決め、調理・配膳・下膳等、出来る事を手伝って頂ける様支援している。 利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、無理なく満足した食事が出来るように努めている。	毎食の食事は、職員の手作りのものを提供されています。入居者と一緒に食材を選び、その日その時に食べたいものを作られています。入居者は、自分のできることを手伝われています。職員も入居者と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら和やかに食事をされていました。入居者一人ひとりの状態に合わせて、量や食材の硬さなどに配慮されています。時には、外食に出かけ、食事を楽しむ機会も設けられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・おやつ時の水分補給はもちろん、一回量が少ない方には分散して勧めたり、夜間もいつでも飲んで頂ける体制を取っている。又、水分摂取量は集計表を作り、水分摂取量に対する職員への意識付けを行っている。 栄養と既往症について、月に二回管理栄養士の指導を受け、体調に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛けを行い洗面所にて口腔ケアをして頂いている。介助が必要な方に対しては、職員が誘導している。 義歯は週に一度、義歯洗浄剤による洗浄・消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人日誌に排泄欄を設け、必要に応じて、排泄パターンや習慣などを職員で共有し支援している。	トイレは3か所あり、1か所は車いすのままでも入れる十分な介助スペースがあります。一人ひとりの排泄パターンをチェック表で確認しながら、入居者の様子を見ながらその人に適した声かけ誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の水分・食事摂取量の把握と共に、食事内容の変化や散歩や体操など運動の声掛けを行っている。 また、排便チェック表の利用で、便秘の改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日、いつでも入浴可能であり、ゆったりと入浴できる時間を確保している。好みに合った状態・時間での入浴が可能としている。	入浴を楽しみにしている入居者が多く、毎日でも入れるように準備されています。個室で、利用者のタイミングを見図りながら、本人が気持ちよく入浴できるよう支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	好きな時間に居室で休んで頂いたり、畳ユニットにて臥床して過ごして頂いている。夜間は特に消灯時間・起床時間は決めておらず、個々のペースに合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの受診ノートに受診の経過を記入している。薬の内容は個人ファイルに綴じてあり、いつでも確認することができる。又、薬剤管理の薬剤師との連携も図っており、利用者個々の薬剤に対する理解も深めている。内服準備者と提供者が分かれている為、声出し確認等行い、安心・安全に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除・洗濯・ゴミ出しなどの家事を含め、個々の出来得ることを見極め、無理なく参加して頂いている。また、レクリエーションや散歩、裁縫や編み物、活け花などの作品作りにも取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ゴミ捨て、買い物等の外出の機会が毎日の日課の中にあり、また、希望があれば散歩やドライブ等も行っている。	ホームの車が使用可能な日は、希望に合わせて出かけておられます。敬老会や忘年会、小旅行など、定期的な外出行事を計画されています。外出をすることにより目的を持ち、日々の生活に張り合いや喜びを感じるよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら金銭を持っておられる方は少数だが、ご家族の了解のもと、自身で管理して頂いている。利用者個人の買い物の際は、預り金より支払っていることをお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、いつでも電話をかけられるよう支援している。 本人・ご家族の希望で、携帯電話を使用しておられる方もある。 葉書の購入・投函などの支援も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の小物を飾ったり掲示、また鉢植えを置くなど、視覚的な安らぎのある空間作りに努めている。	日中は、リビングで過ごされています。対面キッチンで全体を見渡すことができ、調理しながら入居者と会話することができます。畳スペースや窓際に設置されたソファなど、入居者は自分の好みの場所できつろがれています。壁には、季節に応じた飾りつけで、温かく和やかな雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士、隣り合って座れるソファや座布団、籐のイスなどを準備し、皆さんで楽しく談笑したりTVを見たり出来る空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使用していたタンスや、愛着のある置物を持参して頂くなど、ご家族と相談し、より落ち着ける場になるよう工夫している。	居室は和室で、畳ベッド、タンス、ハンガーラックが備えつけられています。入居者は、テレビや椅子、仏壇などを持参されています。自宅と変わらない生活を送られるよう、写真や手作りの作品などを飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・廊下・浴室の手すりの設置はもちろん、利用者一人ひとりが安全に暮らして頂けるよう工夫している。 また、居室の表札の位置や目印など、その方が迷うことなく生活が出来るよう支援している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念とともに自分たちで考えた理念を掲げ、職員間で理解を深めるよう話し合っている。 又、年2回管理者と職員の面談を行い、理念の確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	文化祭や祭り、草刈など地域行事に参加し、交流に努めてたり、運営推進会議に参加していただき事業所の取り組みをお伝えしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎日のゴミ捨てや買い物など、屋外での活動を行うことで地域住民への理解を求めよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度を目標に会議を開催し、ご家族や地域へグループホームでの取り組みをお話し理解を求めると共に、その時々に応じた話しを参加者にしていただき広く高齢者についての理解を求めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者の運営推進会議への出席を含め、必要に応じ適宜連絡を取り支援、指導をうけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修計画に応じ、職員の研修参加及び伝達講習を行っている。ケア方法の疑問を職員間で話し合い、解決できない場合はコンプライアンス会議に図り、具体的に指導を受ける取り組みをしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員への虐待についての勉強会参加が義務付けられており、職員間でコミュニケーションを取り易い関係を作ることで防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>タウンソーシャルワーク、社協等の成年後見人についての研修、包括支援センターの職員と話し合うことで、活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、重要事項説明書にて説明し、理解を得たうえで署名して頂き、その後の疑問についてはその都度説明させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、苦情や意見を言い易い場を作り、職員と利用者・ご家族とのより良い関係を築けるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、全体会議と各階ユニット会議を開催し、職員の意見を求め、会議録にて回覧している。 又、管理者は法人全体の会議に出席、要望があれば提案できる場が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの概要、給与査定の開示、研修案内を掲示し、目標とやりがいをもち働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々に年度研修目標が定めてあり、達成の為の研修案内が示される。また、初任者にはOJTを受けられるよう定められている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域研修会への参加・交流を持ち、情報の共有や意見交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、御本人・ご家族よりの意見を求め、入居決定後に昼食に招待するなど来居の機会を作り、不安が少なく入居して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定前の見学・相談を受け付け、グループホーム内の生活を見て頂き、現在の理念・取り組みを説明、御本人、ご家族の要望をお聞きし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報から、他サービス利用で在宅可能かを含め提案したあと、入居前の情報を職員全体が共有し、入居に向けての対応を話し合い、必要であれば医療機関やデイケアの利用などといった対応が取られている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除や食事作りなど、個々にできる事を一緒に行うことで、グループホーム内での一員であり、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	グループホーム新聞の毎月発行、一人ひとりの一ヶ月の様子を担当者が手紙に記入し、日々の暮らしを感じて頂いたり、来居時にも日々の様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に通っておられた歯科受診やご近所さんの面会時にも一緒にお話しさせて頂くなど、今までの生活を取り入れて生活して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様一人ひとりの状態に応じ、食事の席や職員の対応を理解して頂き、他者に関心を持っていただけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時にも今後、何かありましたらご相談下さい、の一言を添えると共に退居後も情報を得るよう心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人日誌を活用し、職員個々が共通の情報を基に対応し、より良い方法を各自実践し共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者個々のカルテ内に情報記入がされており、各職員がいつでも見ることが出来る為、各自情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの個人日誌を活かし、一日を通しての様子を職員全体で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>個人日誌やセンター方式アセスメントの利用、来居時にご家族の要望を伺い、モニタリング会議内で話し合っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人日誌に各職員の声掛け方や反省、思い等や、利用者様の反応などの記入欄があり、情報を共有し話し合い計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>体調の変化や入居前の情報により、他事業所PTへの相談やデイケア利用など行われている。また、他事業所で行われている行事等に参加し、広い地域の関わりを持てるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事に参加し地域資源の活用に努めている。地域出身の方々もおられるため、その方を中心に、地域への関わりを持って行けるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>グループホームかかりつけ医と連携し、家族の希望を伺いながら病状によっては各専門病院を受診している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週に一度の往診時に病院よりグループホーム担当の看護師が同席し、細かな診療治療を受ける事が出来る。また、在籍看護師への連絡・相談も密に行えるよう、日誌への記入欄を設けている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	協力病院が多数あり、情報交換が行われている。入院された際には、出来る限り面会に行き様子を把握し、退院時にはカンファレンスに同席し、帰居後へ繋ぐ対応をしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	看取り等の希望は伺っているが、現状、医療機関との連携の中ではっきりした結論が出ていない。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	入居者一人ひとりを知ることで、今後起こり得る事態に対応できるよう職員間で話し合いが持たれている。事故発生時のマニュアル制作や勉強会も行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署員立会いの下、年一回の非難訓練を実施し、連携施設との共同消火活動も行っている。又、外部の防災研修、消防競技会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する礼を失わない声掛けや対応に努め、職員間でも話し合っている。。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入所者とのコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いを引き出し、職員、入居者が共有し、分かってもらえる、満足感を持てるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活の中で、無理強いすることなく、利用者の思いに沿った外出や散歩・家事などの声掛けを行い、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類や雑貨などの買い物の必要があれば、利用者と一緒に掛けて購入している。 その日に着る衣類も、利用者と一緒に選び、着て頂くようにしている。 美容室等も希望に応じ、外部を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の買い出しには、利用者と一緒に掛付け、食べたいもの、季節を感じる物など食材を決め、調理・配膳・下膳等、出来る事を手伝って頂ける様支援している。 利用者一人ひとりの好き嫌いを把握し、無理なく満足した食事が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・おやつ時の水分補給はもちろん、一回量が少ない方には分散して勧めたり、夜間もいつでも飲んで頂ける体制を取っている。又、水分摂取量は集計表を作り、水分摂取量に対する職員への意識付けを行っている。</p> <p>栄養と既往症について、月に二回管理栄養士の指導を受け、体調に合った食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、声掛けを行い洗面所にて口腔ケアをして頂いている。介助が必要な方に対しては、職員が誘導し行っている。</p> <p>義歯は週に一度、義歯洗浄剤による洗浄・消毒を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人日誌に排泄欄を設け、必要に応じて、排泄パターンや習慣などを職員で共有し支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々の水分・食事摂取量の把握と共に、食事内容の変化や散歩や体操など運動の声掛けを行っている。</p> <p>また、排便チェック表の利用で、便秘の改善に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ほぼ毎日、いつでも入浴可能であり、ゆったりと入浴できる時間を確保している。好みに合った状態・時間での入浴が可能としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	好きな時間に居室で休んで頂いたり、畳ユニットにて臥床して過ごして頂いている。夜間は特に消灯時間・起床時間は決めておらず、個々のペースに合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの受診ノートに受診の経過を記入している。薬の内容は個人ファイルに綴じてあり、いつでも確認することができる。又、薬剤管理の薬剤師との連携も図っており、利用者個々の薬剤に対する理解も深めている。内服準備者と提供者が分かれている為、声出し確認等行い、安心・安全に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除・洗濯・ゴミ出しなどの家事を含め、個々の出来得ることを見極め、無理なく参加して頂いている。また、レクリエーションや散歩、裁縫や編み物、活け花などの作品作りにも取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ゴミ捨て、買い物等の外出の機会が毎日の日課の中にあり、また、希望があれば散歩やドライブ等も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら金銭を持っておられる方は少数だが、ご家族の了解のもと、自身で管理して頂いている。利用者個人の買い物の際は、預り金より支払っていることをお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、いつでも電話をかけられるよう支援している。 本人・ご家族の希望で、携帯電話を使用しておられる方もある。 葉書の購入・投函などの支援も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の小物を飾ったり掲示、また鉢植えを置くなど、視覚的な安らぎのある空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士、隣り合って座れるソファや座布団、籐のイスなどを準備し、皆さんで楽しく談笑したりTVを見たり出来る空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使用していたタンスや、愛着のある置物を持参して頂くなど、ご家族と相談し、より落ち着ける場になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・廊下・浴室の手すりの設置はもちろん、利用者一人ひとりが安全に暮らして頂けるよう工夫している。 また、居室の表札の位置や目印など、その方が迷うことなく生活が出来るよう支援している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	✓	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	✓	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームわらえ

作成日 平成 28 年 3 月 3 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	自然災害発生時の備えが不十分。地域との防災連携が取れていない。	ホーム及び地域の防災計画を関連づけ、共働することができる。	近隣自治会との連携方法について話し合い、協力体制を築く。	1年間
2	6	家族が訪問した際は、意見等を伺っているが、家族は全ての望みを職員に伝えきれていない現状がある。	家族と共に、入居者の生活を支える。	家族に独自アンケートを実施し、運営に活かす。	1年間
3	3	運営推進会議に家族の参加が少なく、個別にお願いしている。毎回、固定の家族の出席になっている。	家族に運営推進会議のねらい等について理解してもらう。	現在の開催時間、場所についてアンケートを実施し、より参加しやすい状況をつくる。	1年間
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。